

米国・カナダ・オーストラリア 3カ国の豆類の生産見通し概況

●米国：2025年7月11日公表 USDA Crop Production

6月農業概況（抜粋）

6月の平均気温は、米国の主要な農業生産地域で平年並みを上回った。太平洋沿岸北西部及び南西部では、6月の平均気温が平年並みを1.1℃から3.3℃上回った。オハイオ渓谷の大部分の地域でも、6月の平均気温が平年並みを上回った。太平洋沿岸北西部では引き続き乾燥状態が続いたが、米国の大部分の地域で平年並みに近いか平年並みを上回る降水量が得られた。大平原地域の中央部及び南部では、降水量が平年並みを上回り、一部の地域では平年並みを最高で152.4mm上回った。ミシシッピ渓谷南部及びテネシー渓谷でも6月の降水量が平年並みを上回った。これと対照的に、フロリダ州北部及び東部では異常な乾燥状態となっている。

表1 米国の豆類銘柄別作付・収穫面積

作物名	作付面積 (ha)		収穫面積 (ha)		単収 (t/ha)		生産量 (t)	
	2024	2025	2024	2025	2024	2025	2024	2025
ヒヨコマメ	203,150	218,530	199,270	211,570	1.28		255,460	
乾燥インゲンマメ	620,390	647,500	608,490	635,810	2.33		1,419,250	
乾燥エンドウ	394,980	433,020	380,370	414,400	1.99		756,550	
レンズマメ	378,790	408,740	365,440	390,120	1.12		410,460	

データは入手可能な最新の推定値であり、最新の報告書または前回の報告書の推定データに基づいている。現行年度の推定は、2025作物年度に関するものである。

空欄は、推定期間がまだ始まっていないことを示す。

作物生産量：2025年7月11日公表。国内農業統計局(NASS)、農業統計委員会、米国農務省(USDA)。

作付面積、収穫面積、単収及び生産量は、メートル法の単位(tまたはha)で示されており、2024年度及び2025年度に米国が公表したものである。

●カナダ：2025年6月20日公表 AAFC Outlook for Principal Field Crops

本報告書は、カナダ農業食料省の2024/25作物年度及び2025/26作物年度の5月時点での生産見通し報告書を、2025年6月13日までに入手した情報及びそれまでの時点で効力を持つ通商施策に基づいて更新するものである。この時点での通商施策は正式に有効期限が示されない限りは有効であるとみなされるべきものである。カナダ産の大部分の作物について、作物年度は8月1日に

始まり7月31日に終わる。ただし、トウモロコシ及びダイズについては、作物年度が9月1日に始まり8月31日に終わる。地政学上の懸念及び貿易の不確実性により、カナダ及び世界の穀物市場の不安定性が高まっている。

乾燥エンドウ（抜粋）

2024/25作物年度のカナダの乾燥エンドウ輸出量は、2023/24作物年度に比べて減少して230万tとなる見込みであり、中国及び米国への輸出の減少分がインド及びバングラデシュへの輸出の増加により埋め合わされている。8月から4月までの期間のカナダから米国への輸出量は8万2,000tで、米国の乾燥エンドウ生産量が減少したにもかかわらず、前年同時期に比べて減少している。カナダの期末在庫量は、国内利用量が増加したにもかかわらず、輸出需要が低下したことから、前年度に比べて増加する見込みである。乾燥エンドウの平均価格は、乾燥エンドウ全銘柄について2023/24作物年度の水準に比べて低下する見込みである。

緑色乾燥エンドウの価格は黄色乾燥エンドウの価格を過去最高記録の200ドル/t上回っており、これを2023/24作物年度の185ドル/tと比べるとその差が明らかである。5月中を通じて黄色乾燥エンドウの生産者価格には変化がなく、その一方で、2025/26作物年度の緑色乾燥エンドウの供給量の増加が見込まれているにもかかわらず、緑色乾燥エンドウの価格は45ドル/t上昇している。

2025/26作物年度のカナダの乾燥エンドウ作付面積は、前作物年度において有利な収益性が得られたことにより、2024/25作物年度に比べて9%増加して142万haとなる見込みである。州別にみると、サスカチュワン州が乾燥エンドウの作付面積の52%を占めており、アルバータ州が42%を占め、残りの作付面積はカナダ各地に散在している。

生産量は、作付面積が増加したものの単収が平年並みであったことから、増加するとはいえ310万tとなる見込みである。生産量が増加する見込みであり、期初在庫量も増加するものと推定されていることから、供給量は10%増加する見込みである。供給量が増加したにもかかわらず、輸出量が大幅に減少して160万tとなる見込みであるが、これは主として中国がカナダ産の乾燥エンドウに対して輸入関税を設定していることの結果である。期末在庫量は、増加して過去最高記録の130万tとなる見込みであり、これは長期間における

平均値を大きく上回っている。平均価格は、2024/25作物年度に比べて低下する見込みであるが、これはカナダ産の乾燥エンドウの最大の市場である中国が、カナダから輸出する乾燥エンドウに対して輸入制限をかけていることによるものである。

レンズマメ（抜粋）

2024/25作物年度のカナダのレンズマメの輸出量は、作付面積が、2023/24作物年度に比べて大幅に増加していることから210万tとなる見込みである。主な輸出市場はインド、トルコ及びアラブ首長国連邦である。

期末在庫量は、増加の見込みである。すべての品種及び等級の平均価格は、前作物年度の過去最高記録の水準から低下する見込みである。これは、主に期末在庫量が多いこと及び価格の低下、特に大粒、中粒及び小粒の緑色レンズマメの価格が低下していることによる。2024/25作物年度の大粒緑色レンズマメの価格は赤色レンズマメの価格を505カナダドル/t上回る見込みである。5月中を通じて大粒緑色レンズマメの価格は25ドル/t低下しており、赤色レンズマメの生産者価格は安定していた。

2025/26作物年度のカナダのレンズマメ作付面積は、169万haで、前作物年度に比べてわずかに減少する見込みであるが、これは2024/25作物年度に緑色レンズマメの生産者価格が大幅に低下したことによるものである。サスカチュワン州がレンズマメの作付面積の86%を占め、残りをアルバータ州及びマニトバ州が占める見込みである。生産量は、AAFCの予測によれば、4%減少して233万tとなる見込みである。生産量の減少の一部が、期初在庫量が増加したことによって相殺された結果として、供給量は減少して271万tとなる見込みである。輸出量は、前作物年度と変わらず210万tとなる見込みである。期末在庫量は、前作物年度と変わらず30万5,000tとなる見込みである。世界的に供給量が増加しており、最高級の等級の価格が低下していること、並びにカナダ産レンズマメの等級別の分布が平年並みであるとの予測の中で、平均価格は、2024/25作物年度に比べて低下する見込みである。

乾燥インゲンマメ（抜粋）

2024/25作物年度のカナダの乾燥インゲンマメの輸出量は減少して前作物年度をわずかに下回る40万tとなる見込みである。米国及びEU諸国が引き続

きカナダの乾燥インゲンマメの主要な市場であり、これより少ない量が日本及びメキシコに輸出されている。北米での供給量が増加してきたことで、カナダでの価格の低下が生じている。このような状況から、2024/25作物年度を通じて米国及びカナダの乾燥インゲンマメの価格は抑えられている。

2025/26作物年度のカナダの作付面積は、主として他の作物に比べて収益性が低い可能性があることから、2024/25作物年度に比べて11%減少する見込みである。州別にみると、オンタリオ州が乾燥インゲンマメ作付面積の30%を占め、マニトバ州が49%、アルバータ州が10%、残りをサスカチュワン州、ケベック州及び沿海諸州が占める見込みである。生産量は、減少して37万tとなる見込みである。期初在庫量が増加したにもかかわらず、供給量は減少する見込みである。供給量が減少することから、輸出量は減少する見込みである。期末在庫量には変わりがない見込みである。特にブラック・ビーン及びピントー・ビーンについて、北米での供給量が減少する見込みであることから、カナダの乾燥インゲンマメの平均価格は上昇する見込みである。

ヒヨコマメ（抜粋）

2024/25作物年度のカナダのヒヨコマメ輸出量は、トルコ及び米国からの輸出需要が低下したことから、減少して17万tとなる見込みである。期末在庫量は重荷となる数量に達する見込みである。平均価格は、前作物年度の過去最高記録の価格から大幅に低下するものと予測されている。

2025/26作物年度の作付面積は、2024/25作物年度に比べて6%減少する見込みであるが、これは前作物年度において収益性が生産者にとって低かったことによるものである。州別にみると、サスカチュワン州がカナダ全体のヒヨコマメの作付面積の大部分を占めており、残りをアルバータ州が占めている。生産量は、作付面積及び単収が減少したことから、減少して26万5,000tとなる見込みである。生産量の減少が、期初在庫量が多かったことにより相殺されることから、供給量は増加する見込みである。輸出量は増加する見込みであり、期末在庫量は前年度に比べて大幅に増加する見込みである。2025/26作物年度の等級別の分布が平年並みであると予測されており、世界的な供給量が増加する見込みであることから、平均価格は低下する見込みである。

表2 カナダの豆類の作付面積・収穫面積・単収その他

	乾燥エンドウ [a]			レンズマメLentils [a]			乾燥インゲンマメ [a]			ヒヨコマメ [a]		
	2023-2024	2024-2025[f]	2025-2026[f]	2023-2024	2024-2025[f]	2025-2026[f]	2023-2024	2024-2025[f]	2025-2026[f]	2023-2024	2024-2025[f]	2025-2026[f]
作付面積 (1,000ha)	1,233	1,300	1,423	1,485	1,704	1,689	129	163	145	128	194	183
収穫面積 (1,000ha)	1,200	1,281	1,390	1,460	1,693	1,665	129	160	142	127	194	183
単収 (t/ha)	2.17	2.34	2.25	1.23	1.44	1.4	2.63	2.65	2.61	1.25	1.48	1.45
生産量 (1,000kt)	2,609	2,997	3,125	1,801	2,431	2,325	339	424	370	159	287	265
輸入量 (1,000t) [b]	127	40	20	92	125	75	70	70	70	47	40	40
総供給量 (1,000t)	3,286	3,337	3,570	2,104	2,721	2,705	489	514	495	299	356	410
輸出量 (1,000t) [b]	2,402	2,300	1,600	1,675	2,100	2,100	408	400	380	184	170	175
国内総利用量 (1,000t) [c]	584	612	670	264	316	300	61	59	60	86	81	85
期末在庫量 (1,000t)	299	425	1300	165	305	305	20	55	55	30	105	150
在庫量/利用量 (%)	10	15	57	9	13	13	4	12	13	11	42	58
平均価格 (\$/t) [d]	460	410	365	1000	810	730	1,215	1,100	1,140	1,005	755	750

[a] 作物年度 (8月から7月)。

[b] 輸入量及び輸出量には加工品の量は含まれない。

[c] 国内総利用量=食料及び加工原料用+飼料用副産物+種子用+損耗。国内総利用量は、総供給量から輸出量及び期末在庫量を差し引いて算出した値である。

[d] 生産者価格 (FOB)。すべての銘柄、等級及び市場の平均。

[f] カナダ農業食料省による推定。ただし、2023/24年度の作付面積、収穫面積、単収及び生産量については、カナダ統計局による。

典拠：カナダ統計局 (STC) 及びカナダ農業食料省 (AAFC)。

● オーストラリア：2025年6月3日公表 Australian crop report

概観 (抜粋)

オーストラリアの2025/26冬作年度の生産量は、前年度に比べて6%減少して5,560万tになるものと予測されている。これは、2024/25冬作年度までの10年間の平均を13%上回っており、予測通りになった場合には、記録史上6番目に高い値となる。このように生産量の高水準が予測されているのは、前作物年度に非常に高い生産量を達成したクイーンズランド州、ニューサウスウェールズ州及び西オーストラリア州で乾燥状態が続いていることで生産量が通常通りに戻った一方で、南オーストラリア州及びヴィクトリア州で生産量が改善されていることを反映したものである。2025/26冬作年度の特徴は、オーストラリアの主要な冬作生産地域の生育条件に、地域によって大きなばらつきがあることである。

- ニューサウスウェールズ州南部、ヴィクトリア州西部、南オーストラリア州及び西オーストラリア州北部の生産地域では極度に乾燥した状態が続いており、土壌水分含有割合が非常に低くなっている。このように、2025/26作物年度の作物は乾燥した状態のもとで作付けられているので、作物が順調に発芽及び生育するためには6月中旬に時宜を得た十分な降雨が必要である。秋季の生育条件が乾燥したものとなる見込みであることから、一部の生産者が当初の作付け意向をすべて実現することを控える動きにつながりかねない見込みがある。

・これと対照的に、クイーンズランド州、ニューサウスウェールズ州北部及び西オーストラリア州南部の生育条件は非常に良好である。これは、秋季の始めに平年並みから平年並みを大きく上回る降水量が得られ、引き続き土壌水分含有割合が向上したことによるものである。これにより、これらの地域では冬作年度の始めに当たり良好な生育条件が得られている。

オーストラリア気象庁が2025年5月22日に公表した最新の3カ月間（6月から8月）降水量予測によれば、クイーンズランド州、ニューサウスウェールズ州、ヴィクトリア州北部及び南オーストラリア州といった生産地域では、冬季の降水量が平年並みを上回る可能性が60%から80%となっており、西オーストラリア州の生産地域では平年並みを上回る降水量が得られる可能性がこれより低く、35%から50%となっている。このように、6月から8月にかけて全般的に良好な降水量の見通しであることから、予測通りになれば乾燥状態で作付けられた作物の発芽が助けられ、冬作の栽培期間の後半において追加して作付けを行える見通しが出てくる。

オーストラリアの2025/26冬作年度の豆類の作付面積は、前年度に比べて2%増加して320万haと予測されており、これはヒヨコマメ、レンズマメ及びルーピンの作付面積が増加したことによるものである。2025/26冬作年度のヒヨコマメの作付面積は、2%増加して110万haとなるものと予測されている。この値は、2024/25冬作年度までの10年間の平均を63%上回っていて、高い収益が見込まれることと、クイーンズランド州及びニューサウスウェールズ州で生育期間の始めの生育条件が良好であることを反映したものである。レンズマメの作付面積は、生産者の収益性が高いことと、レンズマメが乾燥した生育条件のもとでも他の一部の作物に比べて生育が良いことを反映して、2025/26冬作年度にはさらに増加して過去最高記録の110万haとなる見込みである。

毎年、困難な生育条件に見舞われているにもかかわらず、大部分の生産地域で冬季に平年並みから平年並みを上回る降雨が得られる可能性が高まっていることから、2025/26作物年度の冬作生産量は平年並みを上回る見込みである。しかし、オーストラリア南東部で生育期間の始めに乾燥状態に見舞われ、土壌水分含有割合が制限された状況では、予測された降雨が実現して目標とした単収が達成されるかどうかは難しいところである。

・2025/26作物年度のレンズマメの生産量は17%増加して150万tとなる見込

みであり、この値は2024/25作物年度までの10年間の平均を71%上回っている。

・2025/26作物年度のヒヨコマメ生産量は、作付面積の増加が単収の低下によって相殺され、17%減少して190万tとなる見込みである。この生産量の水準は、2024/25作物年度までの10年間の平均を96%上回っている。

表3 オーストラリアの豆類の作付面積及び生産量

作物名	作付面積(1,000ha)			生産量(1,000t)		
	2023-24s	2024-25s	2025-26f	2023-24s	2024-25s	2025-26f
ヒヨコマメ	409	1,039	1,058	491	2,267	1,877
ファバビーン(ソラマメ)	343	401	399	640	750	680
フィールドビー	192	193	184	228	228	217
レンズマメ	865	1,037	1,052	1,643	1,272	1,492
ルーピン	441	515	551	611	778	772

f: ABARESによる予測。

s: ABARESによる推定。

注: 作物年度は、4月1日から3月31日までの12カ月に作付けされた作物を対象としている。首都圏及びオーストラリア北部の数値をオーストラリア全体の生産量に含めるかどうかによって、各表の間に若干の差異が生じる場合がある。面積は作付面積であって、収穫に至った面積、飼料用として利用された面積、または放棄された面積を含む。

典拠: ABARES(オーストラリア農業経済及び農業科学庁)、ABS(オーストラリア統計局)、Pulse Australia

表4 オーストラリアの州別生産量

冬作物名	ニューサウスウェールズ州		ヴィクトリア州		クイーンズランド州		南オーストラリア州		西オーストラリア州		タスマニア州	
	作付面積 (1,000 ha)	生産量 (1,000t)										
ヒヨコマメ												
2023-24s	150.0	165.0	25.0	30.0	220.0	280.0	10.0	12.0	4.0	4.2	0.0	0.0
2024-25s	580.0	1 280.0	24.0	22.0	420.0	950.0	10.0	9.0	4.5	6.0	0.0	0.0
2025-26f	590.0	1 050.0	22.0	22.0	430.0	790.0	11.0	10.5	4.5	5.0	0.0	0.0
2024/25作物年度までの5年間の平均	301.6	541.6	28.0	34.1	269.4	454.7	9.2	11.0	5.2	6.2	0.0	0.0
フィールドビー												
2023-24s	40.0	40.0	45.0	60.0	0.0	0.0	75.0	86.0	32.0	42.0	0.0	0.0
2024-25s	50.0	65.0	40.0	40.0	0.0	0.0	70.0	65.0	33.0	58.0	0.0	0.0
2025-26f	45.0	55.0	40.0	45.0	0.0	0.0	65.0	65.0	34.0	52.0	0.0	0.0
2024/25作物年度までの5年間の平均	40.3	49.1	49.2	79.1	0.0	0.0	76.5	98.9	39.3	58.9	0.0	0.0
レンズマメ												
2023-24s	15.0	14.0	450.0	856.1	0.5	0.4	390.0	760.0	9.5	12.5	0.0	0.0
2024-25s	35.0	50.0	520.0	650.0	1.3	1.5	470.0	554.6	10.5	16.0	0.0	0.0
2025-26f	30.0	30.0	530.0	750.0	1.1	1.2	476.0	690.0	15.0	21.0	0.0	0.0
2024/25作物年度までの5年間の平均	17.8	21.4	371.2	626.6	0.9	1.0	333.9	627.0	10.2	15.5	0.0	0.0
ルーピン												
2023-24s	45.0	60.0	40.0	41.0	0.9	1.4	40.0	48.0	315.0	460.0	0.1	0.4
2024-25s	90.0	125.0	35.0	30.0	1.5	3.0	38.0	35.0	350.0	585.0	0.0	0.0
2025-26f	80.0	100.0	34.0	32.0	1.2	2.2	36.0	38.2	400.0	600.0	0.0	0.0
2024/25作物年度までの5年間の平均	67.0	102.0	38.0	41.0	1.3	2.1	44.0	53.5	368.3	663.9	0.0	0.1

f: ABARESによる予測。

s: ABARESによる推定。

注: 面積は作付面積であって、収穫に至った面積、飼料用として利用された面積、または放棄された面積を含む。生産量は、一定の規模以上の営農組織(EVAO)を対象として算出している。

典拠: ABARES(オーストラリア農業経済及び農業科学庁)、ABS(オーストラリア統計局)、Pulse Australia

表5 オーストラリアの豆類供給量及び利用状況

作物名	2018-19 (1,000t)	2019-20 (1,000t)	2020-21 (1,000t)	2021-22 (1,000t)	2022-23s (1,000t)	2023-24s (1,000t)
豆類 d						
生産量						
ルーピン	799	591	866	958	1101	611
フィールドピー	160	210	399	261	314	228
ヒヨコマメ	205	235	876	1062	541	491
見かけ上の国内利用量 c						
ルーピン	526	376	406	400	268	216
フィールドピー	87	165	275	66	186	125
ヒヨコマメ e	1	1	1	1	1	1
輸出量						
ルーピン	273	215	459	557	833	395
フィールドピー	75	48	126	196	129	104
ヒヨコマメ	371	349	879	594	725	518

c：生産量に輸入量を加えた値から、輸出量を引き、さらに在庫量に明らかな変化が認められた場合には、その値を引いて算出した値。
d：市場年度は、11月から10月までである。
e：見かけ上の国内利用量は、生産量に輸入量を加えた値が輸出量を上回った場合には、1となる。
s：ABARESによる推定。
注：輸出量のデータは、市場年度に基づくものであって、他の資料で公表されている財務年度に基づく輸出量の数値と一致しない場合がある。生産量は、一定の規模以上の営農組織(EVAO)を対象として算出している。
典拠：ABARES(オーストラリア農業経済及び農業科学庁)、ABS(オーストラリア統計局)、Pulse Australia